青森県総合社会教育センター運営協議会（令和5年度第2回） 議事録（要旨）

１ 日 時

令和６年２月２７日（火）１３時１５分～１５時１５分

２ 場 所

青森県総合社会教育センター４階　第２教材開発室

３ 議 題

（１）主な事業の令和５年度の実績と令和６年度の計画について

① パワフルＡＯＭＯＲＩ！創造塾

② 大学生とカタル！キャリア形成サポート事業

③ 地域の今と未来をつなぐキャリア教育推進事業

④ 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

（２）あおもり県民カレッジ運営事業（指定管理者）

（３）その他

４ 出席者

〔委　員〕（敬称略）

小山田委員、秋田委員、髙橋委員、木村(洋)委員、沼田委員、木村(信)委員、金澤委員

〔県総合社会教育センター〕

赤尾所長、今泉副所長、葛西総務課長、大平総務課副課長、副田育成研修課長、

今社会教育主事、佐藤教育活動支援課長、佐々木教育活動支援課副課長、

〔学び・生かすあおもりグループ（指定管理者）〕

渡部事務局長

５ 議題

≪案件（１）①②について≫

【委員】

自分は、パワフルＡＯＭＯＲＩ！創造塾（以下「パワフル」と言う。）の卒塾生であるが、今年度のパワフルについては、参加した方々から好評だったと聞いた。事務局の工夫と努力にパワフル卒塾生一同感謝している。

卒塾生同士、各年度の会長、副会長等約 70 人のメンバーによるライングループで繋がっている。例えば、卒塾生の誰かがロケット教室を開くというような情報が、各期で情報共有されているので、今期の塾生は、取組が新聞に掲載される等、色々な取組を行う方が出てきて、とても良かったと思っている。

来年度から、ベーシックコースとアクティブコースと分けて実施するということであるが、二つに分けた目的、講座の回数等実施方法等を教えていただきたい。

【事務局】

これまで塾生は、大学生等の若い人が多い一方、ベテランの 50 代など、今まで地域活動等をしている人がいて、お互いに相乗効果で高め合うのではと考えて事業を行っていたが、若い人たちが置いて行かれるような場合があり、既に活動している人は一生懸命で、熱心に引っ張って行くが、中にはついて行けない人もいる。これが、途中でやめる原因のひとつになっているのではないかということで、今回、若い人や初めての人とベテランを分けることにした。若い人たちはこれまでどおり、講座を受け、

実践活動を行う。ベテランの方は自分たちでこれから何をしようかということをはじめから考えさせるような内容となる。
　今年度、卒塾生と交流したのが好評だったので、活動してる人と初めての人が交流する場を組み込んで、最後に一緒に発表会をして評価し合うというような流れになる。
　講座の回数は増える予定である。

【委員】これまでパワフルに関わってきてみて、初めから地域活動をするつもりで参加している人と各市町村にお願いして参加している人との温度差がある気がしていた。この二つのコースに分けながらも、最終的には一つにして、交流するのは良い。

【委員】
　パワフルのコースを二つに分けるというのは、良い取組。募集人数は、それぞれのコースで 20 名なのか、それとも合わせて 20 名なのか。また、目標人数はあるか。

【事務局】
　二つのコース合わせて 20 名となっている。

【委員】
　パワフルの職業別参加者は把握しているか。教員はどのくらい参加したのか。また、パワフルは通年参加が基本で、スポット的に参加できるわけではない。例えば、底辺層を広げるならば、スポット的な受講、聴講があってもいいのかなと考えた。
　説明の中で下北からの参加がなかったということであったが、例えば、部分的にでも録画したのを見るとか、YouTube に上げるということは考えているのか。

【事務局】
　昨年度は教員の参加もあった。小学校の教員ということで、当センターの所員も昨年１名参加した。今年は教員の参加はなかったが、団体職員、地域おこし協力隊、役場職員、地域県民局の職員など、また、自身でこども食堂やってる方、大学生等が参加した。
　通年参加が基本だが、中には、全部に出られない方は Zoom での参加も可能である。過去には、全部の講座に出て、卒業証を交付して修了ということをやっていたが、全ての講座に参加できない方もたくさんいる。
　YouTube に映像を公開する場合には、塾生を出すことについて検討が必要であるが、そのようなホームページや映像を使った紹介は周知に繋がると思うので、そのような工夫を今後考えたい。

【事務局】
　原則として５回の講座であるが、塾生の都合が悪いといった場合には、柔軟に対応している。
　なお、今年は７月、８月、９月、10 月、12 月と全５回開催したところ。来年のベーシックコースの方は地域活動に対して敷居を低くして、間口を広げるという効果があ

ると考えている。それに対してアクティブコースは、既に実践活動、地域活動等している方がより高度に発展していく効果が得られ、二つのコースが交流することによって、このパワフルの事業がずっと効果的に行われていくのでは考えている。

【委員】
　大学生とカタル！キャリア形成サポート事業（以下「キャリサポ」と言う。）も、良い取り組みである。
　本校では、一昨年、高校生に授業をしてもらう取組を行い、当時、新聞でも取り上げられた。いつもの授業の熱量と違い、年齢が二つ上の先輩の視点や考え方に触れ、一緒に学びを深めていた。
　また、昨年度は、県立保健大学の看護学科の学生が、生徒全員にインタビューをし、生活習慣や、体づくりに関する発表するということをやった。
　今は、学校だけで学びが終わる時代ではない。どれだけ他と繋がって、より深い、より高い、学びにしていくかが重要である。そして、継続しなければ、熱量が下がってしまうので、今後、どういう風に続けていくかということが重要だと考える。

【委員】
　パワフルについて、35 年間続けてこられたのは、魅力ある事業であるからだと思っている。これまで事業を継続してきて、参加したいという熱意のある方の傾向は変化が見られるか。地域に関わってみたいと考える方は増加傾向にあるか。
　また、地域おこし協力隊の方が参加しているとのことだが、各市町村等とのタイアップのような感じで、さらに事業を盛り上げて行くなど、そういった取組を周知すると繋がっていくのではなかと考える。事業を知らない人には、情報が行き届かない。下北地区の参加者がなかったということであるが、いかにして周知していくか、ホームページを活用する等して、取組内容を情報発信することが重要。

【事務局】
　参加したいという熱意のある方は、減少している。個々には熱意のある方はいるが、昔の「パワフル創造セミナー」と比べると確実に熱量が下がっていると感じる。講座についても、今は 5 回の講座だが、昔は十何回と開催し、イベントも数多く実施した。現在は、受講者が受けやすいよう回数を減らしている。
　新たに行うコースを二つに分ける取組は、これからの起爆剤になるのではと期待をしている。

【委員】
　回数を減らして敷居を下げているとういう点で、最近、青森大学からのパワフルの参加者もいる。これから地域が細っていく中で、青森県をどういう風にしていけばいいのかということを学生のうちから実践し、社会に出ていくという取組は、今どこの私立大学でも実施している教育方針であるため、大学生の参加が増え、参加者の裾野が広がっていくと言える。関わる人、関心を持つ人が、多くなっていくっていう点では、個々の熱意とは別な面で上昇していると言えるのではないか。

≪案件（１）③、④について≫

【委員】

生涯学習・社会教育関係職員研修講座（地区研修）について、受講対象は市町村職員だけか。とても良い内容となっているので、ＮＰＯや地域で活動している方々が受講することができれば良い。

【事務局】

地区研修は、他の地区でも受講可能である。講座は、教育委員会を通して周知しているが、例えば、次年度の西北地区の講座等は有名な講師の方なので、家庭教育の方面からも周知していけば良いのではないかと考えている。事務局の方で検討して、周知する際には、関係団体へも連絡できるようにしたい。

【委員】

地域の今と未来をつなぐキャリア教育推進事業（以下「キャリア教育推進事業」と言う。）について、キャリア教育研修会の様子の写真で、それぞれが車座になっている中で、何かものを持っている講師が見受けられるが、例えば実践など、どういった内容の講座で、こういうのが反応が良かったとか、あまり芳しくなかったとか、状況を伺いたい。

【事務局】

むつ中学校では、地元の保育士や、警察官、自衛隊員、牧場経営者、地元の薬品会社の方、自動車会社の方が講師となり、当センターが紹介した東京在住のイラストレーターがオンライン参加した他、テレビ関係の方、青森ワッツの方によるプロスポーツの話など、普段、地元では聞けないような職業人の話を聞くことができた。むつでは１人の講師に対し８名程の生徒が車座となって、１サイクルは 20 分で実施した。講師の説明 12 分、生徒からの質問 8 分の構成となっている。途中休憩を挟んで３箇所ブースを回れるようにした。

基本的にどの講師も一生懸命説明し、子供たちも興味深く聞いていたが、人前でプレゼンするのが、うまい方もいれば、慣れてない方もいた。そういう部分で、少し温度差はあったように見受けられる。

生徒たちが自分で聞きたい講師の話に参加するという形にしているので、生徒の要望とマッチしている。

【委員】

社会教育センターで実施している事業は、１年に何地区か実施して、３年程度で全地区をまわるという形で実施しており、その年度が終わると、次のところに行ってしまう。種を蒔いたのに、次に繋がっていないという事業がとても多いように思える。

事業が終わった後、継続してその事業が根付いているか、検証等しているか。

【事務局】
　キャリア教育推進事業は今年度から実施しているが、教育支援プラットフォームは従来から県内６地区に県で設置しているもの。各地区毎に工夫を凝らした取り組みをしており、職業人との対話集会をいち早く取り入れてやっているプラットフォームもある。
　今年は、そのプラットフォームと当センターが連携することで、例えば遠方の講師や県内ではみつからない職業人をオンラインを活用して参加できるよう環境を整える役目を当センターが担った。
　西北地区では、来年度、学校が独自で実施することになり、西北のプラットフォームは、管内の別の中学校に行って実施することとなった。今年度の取り組みをきっかけに、来年度も事業展開の見通しとなったので、成果が得られたと考えている。

【事務局】
　県の機関なので、地区毎に地域バランスを考えて実施しているが、この事業については、終わったあとのフォローも行っている。
　また、学校の方でも教員の多忙化等色々な問題を抱えているので、ただ事業をやってほしいと言っても難しい状況である。
　学校独自で事業を行うのなら、こういうやり方もできると言った提案や一定の形を示して、例えば学校とプラットフォームの役割分担や、当センターとして協力できる部分を示した結果、来年度に繋がるようになったと考える。

【委員】
　来年度は西北の中学校単独で、引き受けてやりたいということで、県がモデル的に事業を行い、その結果、市町村や地元の団体が、今度は自分たちの力で実施することになったということが、すごく良く回ってる。
　中学校の方で、来年度単独でやると思いたったことについて、どういった所に魅力を感じて、単独で実施するきっかけになったのか教えていただきたい。
　また、来年、その地域でやるにあたって、社会教育センターとして、どういうふうな支援を考えているのか伺いたい。

【事務局】
　西北地区の教育支援プラットフォームの委員をやっている鰺ヶ沢中学校の校長が、昨年度、五所川原第三中学校で先行して実施した取組を見て、令和５年度は鰺ヶ沢中学校でやってほしいと言うことになり、実現した。今年度、実施したことをきっかけに一回で終わらせるのではなく、来年度以降も続けていきたいということで、鰺ヶ沢町教育委員会からも視察に来て、教育委員会の支援員等が来年度協力するなど、教育委員会と一緒に実施することに繋がった。
　当センターとしては、講師を紹介したり、情報提供したり、協力して行きたいと考えている。

【委員】
　自分は高校を中退しており、半年間引きこもり状態、半年間フリーターをしていた経験があり、高校に入り直して、社会人となった。本当に進路を決めるときに悩んだ経験があることが、パワフルの学びの中で深掘りができて、自分が社会に向けてやっていきたいことはこれなのかなと思い、活動を続けてきた。
　現在、進路支援サークル「進活あおもり」という取組を行っており、「進路伴走支援スクール」を開校した。開校と言っても校舎もプログラムもないが、希望があれば話をしようという形で行っている。
　パワフルでの学びの結果、少しずつ自分がやりたいことが社会に繋がっていくような体験ができた。
≪案件（２）について≫
【委員】
　県民カレッジ等に関する業務改善や改革は頑張っていただきたい。自分の勤務先でも業務改善を行っているが、効率的でかつ効果的であることが重要。
　県民カレッジ学生数の確認作業については、例えば、3 年間連絡が途絶えた方については学生ではなくなるなど、入校時にある程度条件を設ける等したら良いのではないか。職員の限られた時間を人数確認に費やすことなく自動化して、その時間を事業の中身の充実に費やす方が県民のためになると思う。

【指定管理者】
　貴重な提言に感謝。検討したいと思う。ただ、今いる 2 万 9 千人については、今から手をつけることは難しいところである。

【委員】
　キャリサポについて、昨年度の実績というところで参加の大学生が昨年度から増加しており、興味を持って参加する大学生が増えることは良いこと。30 名程の増加ということだが、周知や募集の段階で工夫した点などがあるか。

【事務局】
　大学生対象研修会を整理、精選した成果と考えられる。限られた日数になったが、内容が重複して整理したところもあり、このことを事前に周知したことが回数が減っても参加人数が増えた要因になったと考える。
　また、日時設定も学生が参加しやすいよう日曜日に設定した。

【委員】
　今キャリア教育は、学校で重要視されている。卒業後、地域や社会に出て、そこで認められる子供たちを育成しなければならないという観点からすると、キャリア教育推進事業はとてもいい事業だと思う。
　ただし、種は蒔き続けなければならない。それをどのようにして継続していくかということが一番のセンターの役割なのではないかと考える。
　浦町中学校はここ十数年、職業講話、職業体験というのをコロナの時も一度も欠かさず行ってきた。

子供たちの反応を見てると座学は飽きるが、例えば、パトカーを見たり、警察犬、盲導犬と触れあう等、実際に体験すると子供たちは見たことがないぐらいの笑顔に変わっていった。そういった体験は重要なので、これからますます取り組んでいただきたい。

本校はコミュニティスクールなので、ディレクターを通して、地域が協働活動等で動いてくれるので、それほど学校はきつくはない。一番大変なのは、講師の選定と調整であり、神経を使う大変な作業なので、ぜひ、そういった部分を中心的に協力していただければと考える。